

ランキング：2位

習志野公

①習志野市②春3回(2勝3敗)夏8回(19勝6敗)③谷沢健一(元中日)、掛布雅之(元阪神)、小川淳司(元ヤクルト)、福浦和也(ロッテ)、斐紹(ソフトバンク)、福田将儀(楽天)など④中央大、日本大、国士舘大、駒澤大、明治大など

全国優勝2回の公立名門校。全国優勝は1967年夏、75年夏と古いが現在も県内トップクラスの実力を維持。伝統の機動力を前面に出し、複数投手の巧みな継投で相手を翻弄する。小林徹監督は同校OBで80年夏出場時のエース。市船橋監督時代に同校の黄金時代を築き、両校で甲子園通算12勝の名指導者だ。相手校の分析能力には定評がある。県内では抜群の人気を誇り、吹奏楽部が率いる大応援団が球場をホーム化して援護射撃するのは夏の風物詩。ただ、現在は甲子園をかけた試合で5連敗中。課題のパワーアップで雪辱を図っている。

ランキング：3位

木更津総合私

①木更津市②春3回(6勝3敗)夏7回(9勝7敗)③長谷川勉(元阪神ほか)、古屋英夫(元日本ハムほか)、与田剛(元中日ほか)、井納翔一(DeNA)など④早稲田大、国際武道大、桐蔭横浜大、上武大、桜美林大、JX-ENEOSなど

現在最も甲子園に近い強豪。過去5年で春夏5回の甲子園でベスト8が2度、木更津中央時代は打撃中心のチームだったが、最近では堅実な守備に加え、侍ジャパンU-18日本代表に早川隆久(現早稲田大)、山下輝(3年)と2年連続で選出され投手育成も目立つ。ここ最近の甲子園のかかった大会での勝負強さは圧倒的。五島卓道監督は社会人野球の監督を経験したベテラン。オーソドックスな野球に高度な守備戦術が目立ち、自主性を重んじた練習で特に春から夏にかけて伸び率が高い。選手は近郊出身者が多く、甲子園通算51勝の帝京・前田三夫監督はOB。

ランキング：9位

専大松戸私

①松戸市②夏1回(0勝1敗)③安藤正則(元西武)、上沢直之(日本ハム)、原嵩(ロッテ)、渡邊大樹(ヤクルト)④専修大、國學院大、桐蔭横浜大、白鷗大など

竜ヶ崎一、藤代、常総学院で計7度甲子園経験のある、持丸修一監督が2007年末に就任して以降、瞬く間に県内トップクラスにのし上がった。投手作りの名人と言われた監督の下、毎年のように投手が育ち安定した戦力を維持している。秋の関東大会出場はないが、この7年で6回、春の関東大会に出場。一冬越してからの伸び率は高く、地力は常に県内トップクラス。練習試合では関東の強豪校に毎年互角以上の成績を残している状況から考えると、2015夏以来2回目の甲子園出場時には、大きく飛躍する可能性を秘めている。

ランキング：8位

東海大市原望洋私

①市原市②春2回(0勝2敗)夏1回(0勝1敗)③長田昌浩(元巨人ほか)、眞下貴之(元DeNA)、島孝明(ロッテ)、④東海大、国際武道大、千葉商科大、東海大北海道、新日鐵住金かずさマジックなど

東海大系列のなかでも実力急上昇中。甲子園での勝ち星はまだないが、毎年のように育つ本格派投手とパワーのある打線がチームカラーである。特に昨年の島孝明(現ロッテ)、今年の金久保優斗(3年)とスピード豊かな本格派投手の育成能力は高い。また打者もパワーは現状、県内トップクラス。筋力トレーニングで鍛えた筋骨隆々の選手が多い。大型チームも脆さも同居しているが、今後、さらに守備や走塁への高い意欲が出てくれば鬼に金棒だろう。4強のうち専大松戸には相性もいいが、習志野には相性が悪い。選手は近郊出身者が多く部員も大所帯。